

関連部分	御意見	対応（案）
全般	道民の意見を聞くのはパブコメだけで良いのか。他の地域ではフォーラムを開いたりして意見を聞くプロセスを設けることもある。できればやった方がよい。	これまで、NPOなど環境関係団体とオンラインを活用して、意見交換会（ダイアログ）を実施してきているところです。引き続き、こうした場も活用しながら、御意見を伺いたいと考えています。
全般	北海道生物多様性保全計画が、他の計画等とどのような関係にあるのかを示す図の記載があると、わかりやすい。	御意見を踏まえ、他の計画等との関係を示す図を計画本文に記載させていただきます。
<p>〈資料2ページ〉 中期目標</p>	<p>国家戦略では副題に明確にネイチャーポジティブに向けたロードマップとある。地域戦略は国家戦略との整合が重要。ネイチャーポジティブの用語を入れるべき。道民にわかりにくいということであれば、用語集等で整理すべき。</p> <p>国の戦略では、ネイチャーポジティブについて書かれている。国家戦略でいうネイチャーポジティブは、止め、反転させること。資料にある「低減」は、止めるよりも緩く、後ろ向きの印象を受ける。ネイチャーポジティブまで行かないのだということが道の考えであれば、ネイチャーポジティブという言葉を使わないことも理解できるが、国の戦略で言っているのに道はやらないのかという感じがする。</p> <p>「低減」というとまだマイナスで、回復傾向にするということはプラスにかえなければいけないので、「低減させ、転換を図る」という表現は、国家戦略と整合がとれていない。低減ではなく、止めるとしたほうが良い。ネイチャーポジティブという言葉は、言っていることが同じであればあまりカタカナ用語を増やさなくてよいと思う。</p>	<p>国家戦略が目標として掲げる「ネイチャーポジティブの実現」に対する道としての考え方を示すとともに、目指す方向を「損失を低減させ、回復を増進する」として、本道の生物多様性の回復を目標として掲げました。</p>
<p>〈資料3ページ〉 基本方針1 説明文</p>	<p>「直接的な要因への対処」とあるが、直接的ではないと対処しないのか。「直接的な」を取ればよいのでは。</p>	<p>御意見を踏まえ、「直接的な」を削除させていただきます。</p>
<p>〈資料3ページ〉 基本方針1 取るべき行動 30目</p>	<p>事業活動とあるがそれに限らないのでは。家庭の話もある。「事業活動を含む人間活動」とすればよいのでは。説明文には、人間による～とある。整合を取るためにも人間活動とすべき。事業活動とすると限定的になり誤解を招く。</p>	<p>御意見を踏まえ、「事業所・家庭等から発生する汚染・廃棄物による」に修正させていただきます。</p>

関連部分	御意見	対応(案)
<資料3ページ> 基本方針1 取るべき行動 50目	農林漁業者に限定されている。限定されているのは違和感がある。より広い意味の表現にすべきでは。 農林水産業と農林漁業と2つの表現があるので合わせるとよい。漁業だと水産加工が入らない。	御意見を踏まえ、「農林水産業者等」に修正させていただきます。
<資料6ページ> 基本方針2 取るべき行動 10目	森里川海の標記だけでは越境の話が想起されない。越境を意識するなら、「渡り鳥に象徴される世界的な生物多様性のつながりも考慮し」は入れた方がよい。 包括的に記載するのではなく、「国際的な生息地の保護」「森里川海をつながり」「上位種」の3つの観点から取るべき行動を記載してはどうか。	御意見を踏まえ、次のとおり修正させていただきます。 ・10目について、「アンブレラ種の生息環境の改善を図るとともに、流域や山系等を基盤としてつながる複数の生態系」に修正させていただきます、20目とさせていただきます。 ・新たに、10目として、「渡り鳥等の広域的に移動する動物の渡来地等の保全を通じ、道外・国外との生態系のつながりを強化する」を追加させていただきます。 なお、アンブレラ種の用語については、本文記載時に用語解説を記載させていただきます。
<資料9ページ> 基本方針3 取るべき行動 10目	トレードオフについては国家戦略でも書いてあり、シナジーとトレードオフはセット。国が脱炭素を推進する中で、ここははっきりと書くべき。相乗効果を書くならトレードオフも書くべき。	御意見を踏まえ、「便益の相反の最小化及び相乗効果及び」を追記し、トレードオフの観点を併せて記載させていただきます。なお、トレードオフにつきましては、本文中においても記載させていただきます。
<資料9ページ> 基本方針3 取るべき行動 40目	アイヌ文化のことは伝統文化に含むとしてしているが、アイヌ振興は国の方針でもあり、簡略化した形ではなく入れた方がよい。	御意見を踏まえ、「アイヌ文化をはじめとする地域の自然を背景とした伝統文化」と修正させていただきます。
<資料12ページ> 基本方針4 取るべき行動 40目	駆除の理解が進んでいないこと、動物の命は尊重すべきだが、生活の上で駆除しないといけないことを理解してもらうことについては、基本方針4にあってもよい。 愛玩動物との関係を通じた意識の醸成であれば、環境教育で読み込むのもありうるのでは。 ここの部分は幅が広い。アライグマも愛玩動物由来。意識の不足が外来種問題にも通じる。行動として、きちんと書くことを考えてもよい。	御意見を踏まえ、次のとおり修正させていただきます。 ・40目について、「動物とのふれあい等を通じ、生命尊重の意識醸成を図る」に修正させていただきます。 ・新たに50目として、「環境教育などを通じ、生物多様性の重要性や人と自然の適切な関係構築に係る理解の増進を図る」を追記させていただきます。なお、これに伴い環境教育に係る記載を10目から50目に移動させることとします。
<資料14ページ> 横断的・基盤的な取組 説明文 3目	「背景となる昆明・モンテリオール生物多様性枠組」とあるが、義務付けられたものなので、「前提」とした方がよい。	御意見を踏まえ、「基礎」に修正させていただきます。

※資料作成の都合上、御意見の言い回し等は一部変更しています。